今年で100年！――大崎のくらしと街の発展を支え続けた『駅前郵便局』

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと 大崎」のDNA（原風景）を訪ねる『大崎今昔物語』。
その第十二話は、大正4年に開設後、今年で100年を 迎えた大崎駅前郵便局（開設当初は「居木橋郵便局」）の話。
時代の流れの中で、つねに大崎の発展 と人々のくらしと共にあり続けた郵便局。
今では大崎駅前に3局と、街の成長に伴い増え た“大崎ポストファミリー”と一緒にご紹介します。

今や大崎駅前には3つの郵便局が…
再開発と共に増える企業や通勤者、住民の方々の要望に応え、3局開設で利便性倍増の大崎駅前です

局長自ら作った100周年謝恩の店頭ディスプレイ

前任局長を引き継いでまだ2ヵ月の大崎駅前郵便局長、滝沢幸伸さん。一日も早く、一人でも多くの地域の皆さんに顔と名前を覚えていただきたい、とのこと

大崎ニューシティに移築する前、現在の入り口アーチ付近にあった大崎駅前郵便局

大崎発展の歴史の入り口に生まれた郵便局

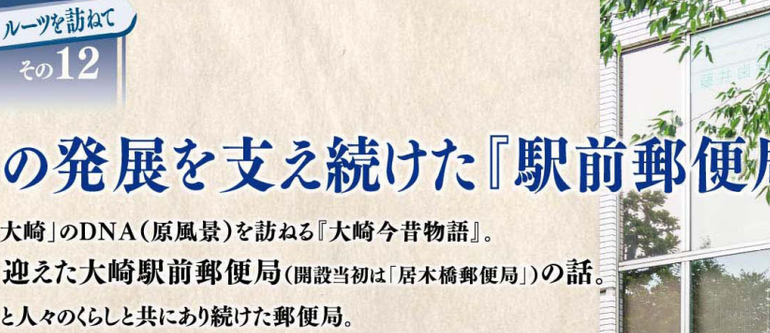
大正4年6月21日、その頃はまだ東京府荏原郡と呼んでいた大崎の街の一角に初めて開局した「居木橋郵便局」。明治34年に既に開通していた「品川線」（現在の山手線の前身）大崎駅のほぼ駅前に誕生したこの郵便局が、現在の「大崎駅前郵便局」の原点でした。当時は、その

↙前年の大正3年に第一次世界大戦が勃発、戦時需要が好景気を呼んで大崎の工業化が進展し始めた頃。駅前に明電舎大崎工場がほぼ同時に完成するなど、大崎の成長と歩調を合わせた郵便局のスタートとなりました。その後、大正12年の関東大震災による被災地からの人口と工場の流入を経て大崎はさらに発展。「居木橋郵便局」はそんな時代の道程と共に歩んだのでした。

大崎駅前郵便局の津村前局長（中央・前）を囲んで、“100周年以後の大崎は任せた”とばかりに、OBと現役局長3人のバトンタッチの記念撮影。左から久喜（ゲートシティ大崎）、内田（大崎駅西口）、滝沢（大崎駅前）の各郵便局長氏

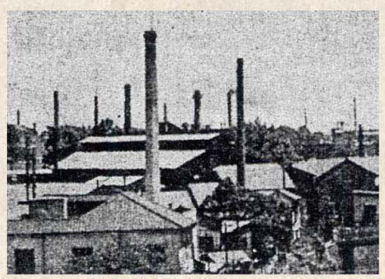
戦後の復興を支えた「東大崎郵便局」。地域貢献の姿勢はそのまま「大崎駅前郵便局」へ

やがて激動の昭和に入って、日本の敗戦とその後の戦後復興の中で、居木橋郵便局から昭和7年に名前を変えた「東大崎郵便局」は、大崎の人々の暮らしを支えます。頼りになる通信媒体としての郵便がもたらす家族や縁者の便り。社会的使命のもとに地域の人々のために真摯に働き続けたポストマンの姿勢は、今の時代に入っても変わることなく様々な地域貢献への取り組みとなって生き続けています。大崎ニューシティの完成で現在地に移築した「大崎駅前郵便局」（昭和43年に「東大崎郵便局」より改称）での栄えある100周年。大崎の街と人々が与えてくれた勲章とも言えそうです。


100周年を迎えた大前駅前郵便局の、これまでの地域支援活動を象徴するかのような「お花いっぱい大崎」運動での活躍ぶり。ゲートシティ大崎と大崎駅西口の各郵便局長も参加、100周年に花を添えてくれましたで。

居木橋郵便局開局

地域の有志が事業委託を受けて運営する特定郵便局として誕生した「居木橋郵便局」。当時の開設地は東京府荏原郡大崎町居木橋356番。その後、東大崎郵便局、大崎駅前郵便局へと変遷、現在に至る。


第一次大戦勃発とその後の関東大震災による工場移転を契機に、工業化への急速な歩みを辿った大崎の工場群

高度成長と共に有数の先進工業地帯へと育った昭和30年代の大崎。写真は大崎駅西口風景

「東京都長期計画」（昭和57年）による大崎副都心の指定が端緒となり、再開発が開始された大崎駅東口地区

昭和62年に完成した再開発の街「大崎ニューシティ」。大崎駅前郵便局もこれに伴い現在地に移築となる

1915 居木橋郵便局 大正4年
1932 東大崎郵便局 昭和7年
1968 大崎駅 前郵便局 昭和43年
1987 大崎駅前郵便局（大崎ニューシティに移築） 昭和62年
2015 平成27年

■資料提供：品川区立品川歴史館　他